

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	自ら主体的に学び、郷土を愛し、勤労を尊び、心豊かで未来を切り拓く調和のとれた産業人を育成する。	学校整理番号	37
(2)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導やキャリアサポートに根ざした進路指導に重点を置き、特色ある教育活動に取り組んでいる。 地域団体や関係団体と連携協力し、地域に根ざした技術者の育成に努めている。 生徒個々の希望進路実現に向け、基礎学力の定着及び専門的な基礎技術・技能の定着・向上を目指した、組織的な指導体制の強化構築を進める。 	学校名	青森県立十和田工業高等学校
(3)重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域から信頼され、郷土及び日本の未来を担う人材育成の学校づくりに努める。 学習・部活動・学校行事等の教育活動において、きめ細かい指導を実践し、生徒と教職員の豊かな人間関係を基本に捉えて、社会の変化に即応できる資質と体力の向上に努める。 生徒や保護者、地域社会から信頼される教職員で、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に対応する教職員を目指す。 	全日制の課程	校舎・分校
(4)結果の公表	学校関係者評価(保護者アンケート等)の結果とともに、ホームページへ掲載して公表する。	自己評価実施日	令和6年1月16日(火)
		学校関係者評価実施日	令和6年1月31日(水)
		(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校評議員 4名、いじめ防止専門員(1名兼評議員)、PTA会長 1名 学校側参加者(校長、教頭、事務長、関係分掌主任、記録) 11名 計16名	
		<(8)目標の達成度> A(ほぼ達成 80%以上),B(概ね達成 60%以上),C(やや不十分 40%以上),D(不十分 40%未満)	

№	(5)評価項目	自己評価		(8)目標の達成度	学校関係者評価	
		(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況		(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10)次年度への課題と改善策
1	地域から信頼され、郷土及び日本の未来を担う人材育成の学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①専門高校の特色を生かした学校づくりを推進する。 A)小学生対象のものづくり体験教室の実施 B)小学生対象の、プログラミング教室の実施 C)ロボット競技大会への参加 D)ものづくりコンテストへの参加 E)校内外の研究成果発表の実施 F)あおり創造学による「地域企業の魅力発見」 ②地域と連携した教育活動を継続して行う。 A)本校の広報活動(体験入学、中学校での学校説明会、公開授業) B)地域ボランティア活動(学校周辺の清掃・有志による海岸清掃)の実施 C)地域企業による技術指導 D)企業との連携事業 ③生徒の規範意識や防災意識の向上に努める。 A)情報モラル教室、交通安全教室の実施 B)防災避難訓練の計画的実施 C)消防クラブの結成 	<ol style="list-style-type: none"> A)小学生ものづくり教室(十和田東小、上北小)の実施した。 B)小学生プログラミング教室(十和田東小)の実施した。 C)本校からはロボット研究部から1年生チームと2・3年生チームの2チームが出場。結果は、惜しくも全国大会出場には及ばなかった。 D)ものづくりコンテスト青森県ものづくりコンテストでは「旋盤作業部門」が第1位で東北大会へ、ほか「電気工部門」第6位(奨励賞)、「電子回路組立部門」第5位(奨励賞)、「木材加工部門」第3位となった。 E)研究成果発表会については、県大会は電気科の3年生が2月に参加予定(本校会場)。 F)生徒が県内企業の魅力や実際に現場で必要な知識や技術を調査・研究することを通し、進路達成や将来のキャリア形成に意欲的に取り組む力を育成した。 【評価項目:14,17】 A)体験入学では、生徒体験実習や保護者見学そして中学校教員説明会を実現できた。公開授業を4月(1日)・11月(2日間)の2回実施した。 B)地域ボランティア活動は6月校内外の清掃活動、8月に有志による横浜海岸の清掃活動を、教員と生徒の協力を得て実施することができた。 C)地域企業(NTT東日本・TTK)による電子科2、3年生への技術指導を行った。 D)企業(NTT東日本)と連携し、3Dカメラによる校舎内撮影実習を行った。 【評価項目:1,3,16,30,32】 A)本校の現状に即した内容で情報モラル教室を実施した。生徒指導通信でもその都度取り上げた。 B)避難訓練年3回実施。実技を伴う内容として各種体験学習を実施した。 C)消防クラブを結成し、避難訓練と青森県総合防災訓練へ参加。将来の地域の防災リーダーとしての意識付けを行うことができた。 【評価項目:5,19,38,39,43,47】 	A 教職員 3.28 保護者 3.29 生徒3.44 平均3.37 (80%以上)	左の目標はおおむね達成されていることが確認された。 生徒の学習成果発表会とともに行ったあおり創造学の地元企業の紹介は良かった。高校生の採用へ向け、企業も動きやすくなると思う。 消防クラブは地域にもとてもメリットがある。地域の消防団が減ってきていることもあり、ぜひ、消防クラブから全生徒へのイベントを企画してほしいと思う。これが一つのモデルにもなり得ると思っている。 来年度、十和田市秋祭りにはぜひ参加してほしい。 グランドデザインに盛り込んでいるものは学校独自のものなのか。 【その他】 これからも工業人の育成に努めてほしい。	ものづくり教育を根幹に据えた学習活動の継続を目指し、専門性を生かした学校運営を図る。 これまで取り組んできた地域内での他校種との交流や、専門性を生かした小学生への学習支援活動等の継続と充実を目指す。 各学科による各種競技会等への参加により、生徒の知識と技能の定着を図るとともに、創造力豊かな人材の育成に努める。 地域企業や関係団体等と連携協力し、地域に根ざした技術者の育成に努める。 十和田市秋祭りへの参加を見据え、年度当初より計画的に調整していく。 生徒の防災意識の向上へ向け、避難訓練等の充実を目指す。 本校の消防クラブによる防災意識の向上と、外部機関と連携した訓練の実施を目指す。また、十和田市指定避難場所として物品管理等に努め、有事に対応できる機能強化を目指す。
2	学習・部活動・学校行事等の教育活動におけるきめ細かい指導。 生徒と教職員の豊かな人間関係を基本に捉えて社会の変化に即応できる資質と体力の向上。	<ol style="list-style-type: none"> ①確かな学力と主体的に学習に取り組む態度の育成を強化する。 A)基礎知識の習得と技能の育成を目指す B)全校漢字テスト、学年別の学習取組(自学ノート、常識テスト) C)高校生のための学びの基礎診断テストを実施 D)資格取得と絡めた主体的学習態度の育成 E)ICT機器を活用した授業展開と改善を行う ②生徒個々に応じた生徒指導とキャリア教育を強化する。 A)生徒理解を基盤とした、いじめの未然防止 B)教育相談、特別支援、スクールカウンセラー(SC)等の活用 C)進路相談、二者/三者面談 D)2、3年生保護者への進学セミナー E)高校生のための講演会、進路講演会 F)社会人になるためのビジネスマナー講習。 G)進路ガイダンス、インターンシップ、企業見学 H)容儀指導、駐輪場指導、登下校指導、校内外巡回指導、家庭訪問等 ③学校行事等を通した生徒の取組意欲の向上に努める。 A)マナーの向上や豊かな心の形成、生徒主体の企画・運営 B)学校行事及び部活動の精選 C)全校朝読書の充実 	<ol style="list-style-type: none"> A)「数学Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅰ」で習熟度別授業、「体育」、「芸術(選択)」、「工業(工業技術基礎、実習、課題研究)で少人数指導、「現代文B」、「工業(工業情報数理、製図)」でチームティーチング活用による高い学習効果の実現。少人数制の指導による基礎技能の定着が図られた。 B)全校一斉漢字テスト(全6回)を実施。 C)学びの基礎診断テストの結果を基に、個々の学習指導へと展開し、確かな学力の定着と保証を目指している。ベネッセによる「高校生のための学びの基礎診断テスト」の教員分析会をオンラインで実施した。 D)ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導(成就感)が、主体的な学習活動へ繋がっている。 E)ICTを活用した授業を実施。授業展開・内容の活性化に努めた。 【評価項目:11,12,13,14,15,35,40,44,48】 A)「理由があっても他人を攻撃しない」「他人を不幸にして喜ばない」の2つをベースとしていじめ防止を推進した。日常的に、様々な先生方がきめ細やかに生徒観察や声かけを実施している。また学年、担任による面談が随時行われており、生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っている。 B)SC定期派遣となり、前年度に比べ積極的に利用する生徒や保護者が増加した。支援が必要な生徒に関しては、担任・学年・保護者・SCとその都度ケース会議を開催し対応することができた。 C)「みらしるべ」などを活用したキャリアサポート強化で学年及び学科に応じた適切なキャリア教育を展開することができた。 D)保護者との連携により実施できた。3年次(1学期)の進路指導に係る三者面談を実施。1年、2年次の後半で、二者面談/三者面談/四者面談等を実施し、個に応じた生徒指導・進路指導に繋がった。 E)東京青森県人会主催の高校生のための講演会(山脇直司氏)と、進路講演会を行うことができた。 F)青森県工業会主催の講習会「働く上で知っておきたいビジネスマナー」を実施することができた。 G)2学年全生徒のインターンシップ実施。各学年の進路ガイダンスにより、進路意識醸成や職業観育成の効果があった。 H)さまざまな生徒指導活動と教育活動を通し、自己指導能力の育成(①自己決定の場を与える ②自己存在感を与える ③共感的人間関係を育成する)を目指す。 【評価項目:2,3,4,16,18,27,28,29,41,45,49,50】 A)学校行事は生徒が主体的に企画・運営に携わり、目的を達成できるように工夫を凝らし実施することができた。 B)体育祭は通常通り実施、文化祭は制限なく一般公開を実施した。生徒主体の運営・計画など、活動と発表の場を確保することができた。 C)ほぼ毎日、全校一斉で実施。月1回、全校共通の題材を用いた読書活動を実施。共有感と他者理解に繋がっている。 【評価項目:22,24,25,26,33,34】 	A 教職員 3.24 保護者 3.30 生徒3.48 平均3.34 (80%以上)	目標はおおむね達成されていることが確認された。 【その他】 働き方改革がうまく進んでいないことに対して、具体的な対策はあるのか。 図書館の利用率が上がらないことに対して、具体的な対策はあるのか。 働き方改革も必要だと思うが、生徒の学力、技能の維持・向上は保ってほしい。 観点別評価における、評価の観点の説明はしっかり行い、見直しを継続的に行ってほしい。 学校の授業公開が年2回になったことは良い。 【その他】 業務の改良提案を常に行っていることはとても良いと思う。校則は今の時代に合ったものにかえても良いと思う。 普段の清掃活動で、自分たちで汚れているところは自分たちで掃除するという意識付けのための清掃を行った方が良い。入試前だからと言って教職員が清掃することは違うと感じる。	生徒の多様性と特性に適した学習場面の提供を図るため、ICT機器を活用した学習活動を推進する。 習熟度学習やチームティーチングによる対応や少人数制の指導等を実施し、学習効果の向上と基礎知識や基礎技術技能等の定着を目指す。 専門力向上に欠かすことのできない共通教科の基礎力向上に努め、学びの診断テスト等の結果をより効果的に活用して学習活動に生かす。 いじめの未然防止と早期発見に向けて、年3回のアンケートを実施する。また、教職員間での情報共有と初動対応に適切に取り組む。 教育相談の充実、特別支援体制の強化、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)の利活用や、外部の関連機関との連携等を通して生徒理解に努め、生徒に寄り添う生徒指導を行う。 生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図り、より積極的な情報発信と助言指導を目指す。 学校行事のコロナ禍のような活動再開とともに、生徒が主体的に取り組むことができる行事の立案実施を目指す。
3	生徒・保護者・地域社会から信頼される教職員、自ら学び続ける姿勢を持ち社会の変化に対応する教職員を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> ①学校の教育目標や学校経営方針または教育活動等の生徒・保護者・地域社会への情報提供。 A)中学生への進路選択の情報提供と本校への理解度向上 B)十和工だよりや学校ホームページの随時更新による情報発信 ②保護者と教職員が連携して教育活動を行うPTA活動の推進。 A)教師と保護者との面談 B)PTA研修会(研修旅行やお菓子作り教室等) C)学校行事(体育祭、文化祭)を利用した連携 ③わかる授業を目指した授業改善に取り組む。 A)校内研修(研究授業・講演・研修会等) B)教職員研修の実施 	<ol style="list-style-type: none"> A)中学生に対する本校への理解啓発のため、近隣の各校へ教務主任が出向き、中学生・保護者・中学教員を対象とした学校説明会を実施した。 B)ホームページの更新と、中学校に送る十和工だよりの充実を図った。 【評価項目:1,3,30,32】 A)各学年による三者面談、四者面談を実施した。 B)進路研修委員会による研修旅行、健全育成委員会によるお菓子づくり教室(2回)、母親委員会によるお菓子づくり教室と茶道教室を実施することができた。 C)健全育成委員会による十和工祭での登校時一声挨拶運動(2日間27名参加)を実施することができた。 【評価項目:30,32,42,46,50】 A)ICTを活用した研究授業等、活性化に努めた。 B)県外研修へ6人が参加した。研修報告会を1月に行い、全教員で情報共有を図った。 【評価項目:14,16】 	A 教職員 3.30 保護者 3.28 生徒3.45 平均3.34 (80%以上)	目標はおおむね達成されていることが確認された。 学校への保護者の足が遠のいているのであれば、学校HPをもっと用いて情報提供をしてほしい。 地区PTAには多くのメリットがあった。三者面談だけでは保護者間の情報共有ができずにいる。全保護者へ案内することも必要。 【その他】 病院の受診率が低いとのことであるが、十和田市はR5.10から18歳までの医療費が無償化されているので、周知通院を進めてほしい。	地区PTAがなくなったことのデメリットを受け、PTA活動から全会員(全保護者)へ向け、案内できるイベントの企画立案を目指す。また、学校HPを充実し、多くの情報提供を行っていく。 中学生に対し本校の特徴や魅力を伝えるための広報活動に重点を置き、志願者数の増加に繋げたい。 PTAに係る各委員会等の活動の再開に伴い、保護者や教職員とが連携を一段強固なものにするため、新たな情報交換等の機会を設定したい。また、工夫を凝らした学校行事等の実施に努め、PTA活動の充実を図る。 ICT機器を活用した教材研究等の取り組みを継続し、わかる授業を目指した授業改善を推し進める。研究授業や校内研修の充実、外部講師等を活用した研修会により、より効果的な取り組みを目指す。
(11)総括	<ol style="list-style-type: none"> ①ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導や、キャリアサポートに根ざした進路指導に取り組むことができた。インターンシップの実施と効果的な利活用に向け、地域企業との連携強化に努める。 ②ICT機器の利活用を推進し、生徒の確かな学力の定着、及び生徒自らが主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ③地域社会との連携を強化し、地域の持つ人材の利活用、及び教育活動の充実を努める。 ④上十三地域の工業高校としての役割を果たすため、技術者倫理を持ち合わせた人材育成に努める。 					